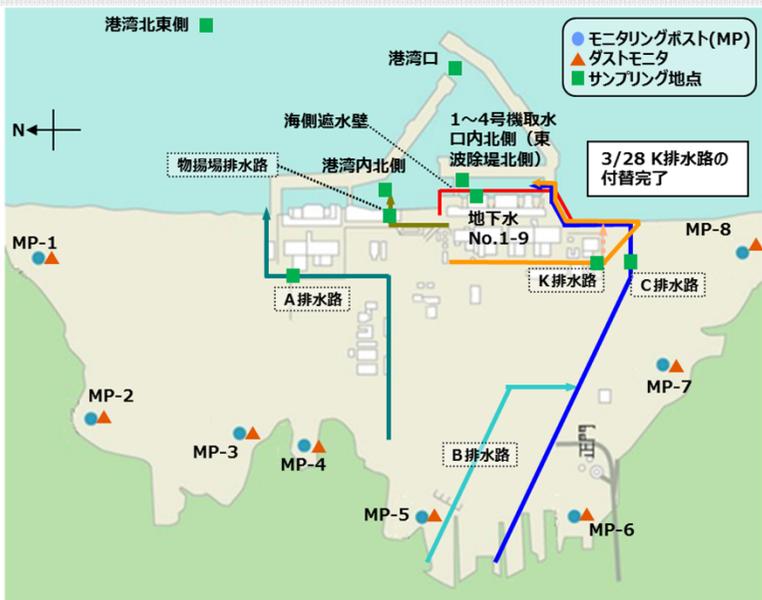
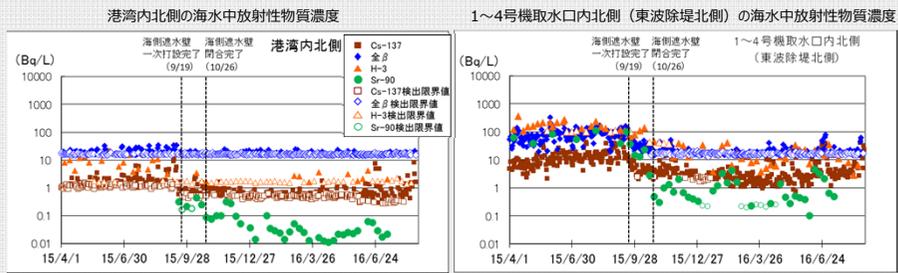


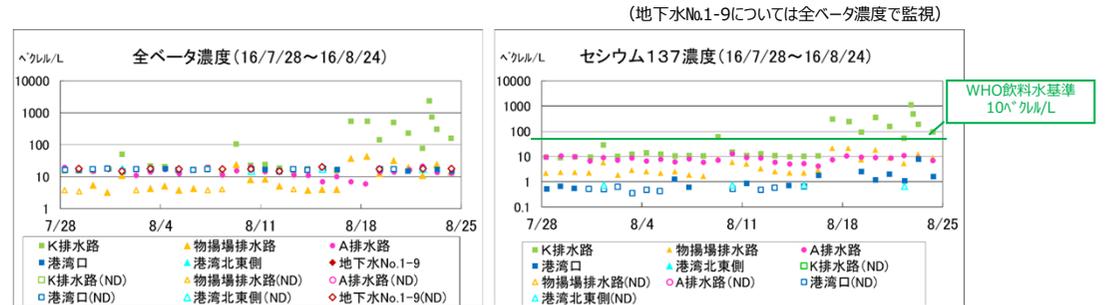
- 前回 (7月27日) 以降のデータ公開数は約8,200件
前回以降、「周辺の放射性物質の分析結果」「日々の放射性物質の分析結果」のデータ約8,200件を公開しました。
- 発電所敷地内、敷地境界のダスト (粉じん) 濃度は安定
ダスト濃度については、発電所敷地内10カ所及び発電所敷地境界付近8カ所に配置したダストモニタにより連続的に監視を行っています。なお、このうち敷地境界付近に配置のダストモニタについては、7月12日より当社HP上でリアルタイムデータの公開を開始したところ。8月2日にモニタリングポストNo.7(MP-7)付近に設置したダストモニタ、8月22日にモニタリングポストNo.8(MP-8)付近に設置したダストモニタにおいて警報が発生しましたが、現場のモニタリング等を行い異常のないことを確認するとともに、念のため当該機器の交換を実施しました。今後もしっかりと監視を行っていくとともに異常の際は速やかにお知らせします。
- 港湾内海水の放射性物質濃度の傾向
昨年10月、海側遮水壁閉合作業の完了後、1～4号開きよ内および港湾内海水の放射性物質濃度は低下し、降雨時には一時的な上昇が見られるものの、低い濃度を維持しています。引き続き港湾内の水質を監視していきます。



TEPCO データ採取位置図 (右のA、B、C等に対応するポイント)

A 水 (海水、排水路、地下水等)

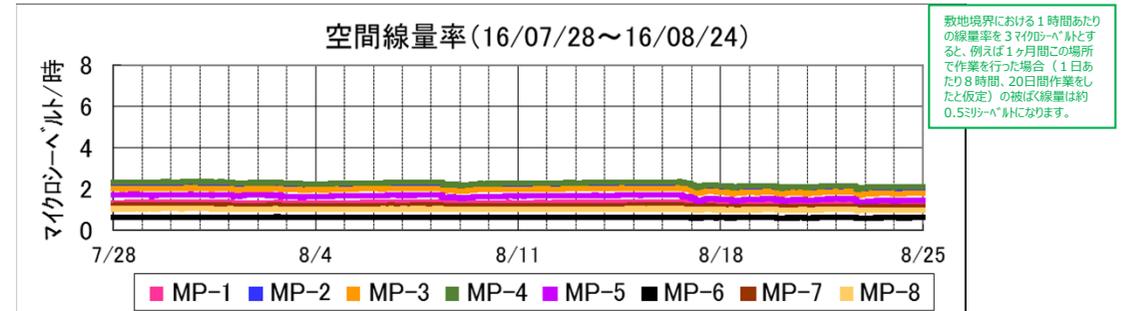
- K排水路では、8月22日の台風に伴う豪雨により、セシウム濃度、全β濃度が一時的に上昇。
- セシウム137は、K排水路を除き概ねWHO (世界保健機関) 飲料水基準を下回った。



- 全ベータとは、ベータ線を放出する全ての放射性物質。ストロンチウム、コバルト等が代表的。セシウムも含まれる。
- (ND)は、不検出の意味で、グラフには検出下限値を記載。

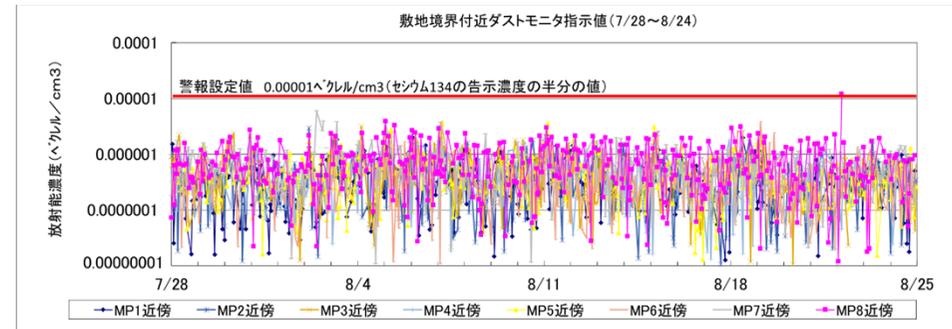
B 空間線量率 (測定場所の放射線の強さ)

- 降雨による一時的な線量率低下が何度か見られたが、低いレベルで安定。



C 空気中の放射性物質

- 大きな上昇はなく、低濃度で安定。
- 8月22日の一時的な上昇については、機器異常を含め調査中

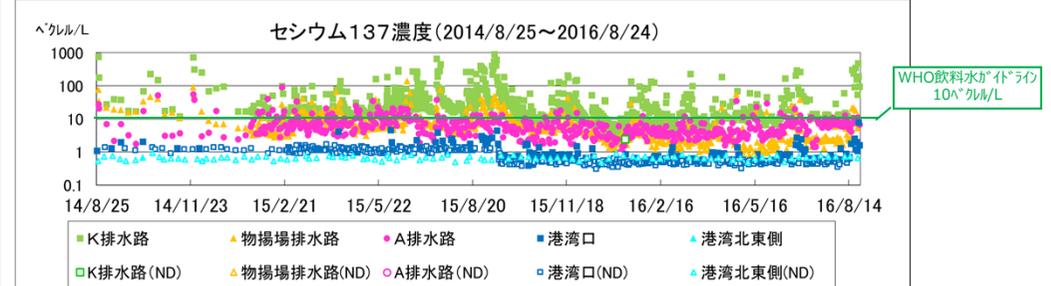
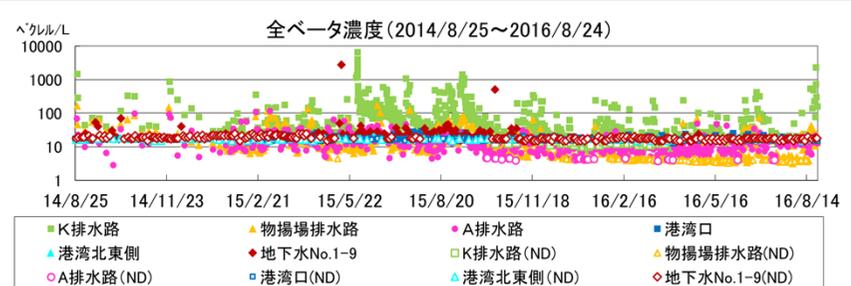


- 告示濃度とは、法令に基づき国が排出を認める濃度。国内の原子力施設共通の基準。

放射線データの概要 過去の状況

A 水（海水、排水路、地下水等）

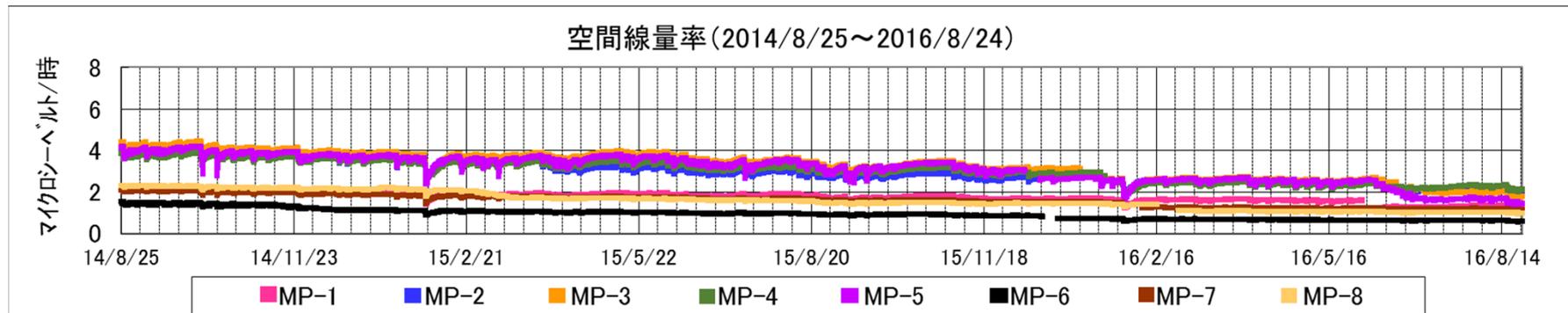
- ・港湾口は低水準で安定。セシウム137はWHO飲料水基準未滿。
- ・K排水路は比較的高い傾向。清掃等の対策を実施中。2016年3月28日に排水先の港湾内付替えを完了。



・K排水路、物揚場排水路、A排水路については2014年4月16日より測定を開始。

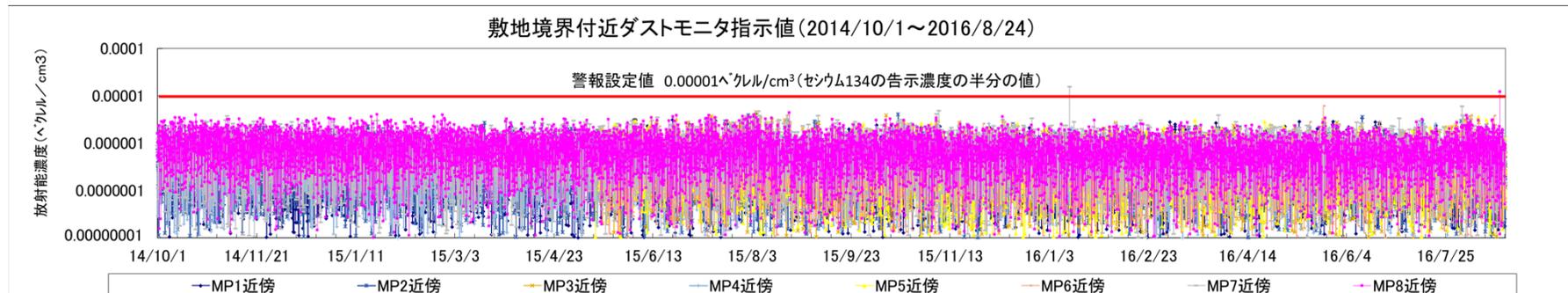
B 空間線量率

- ・汚染水の浄化、除染、フェーシング等により、全てのモニタリングポストにおいて2013年4月の約半分まで低下。



C 空気中の放射性物質

- ・ダストの濃度は、2016年1月13日のMP-7の一時的上昇を除き、大きな上昇は無く、低濃度で安定。
- ・2016年8月22日の一時的な上昇については、機器異常を含め調査中



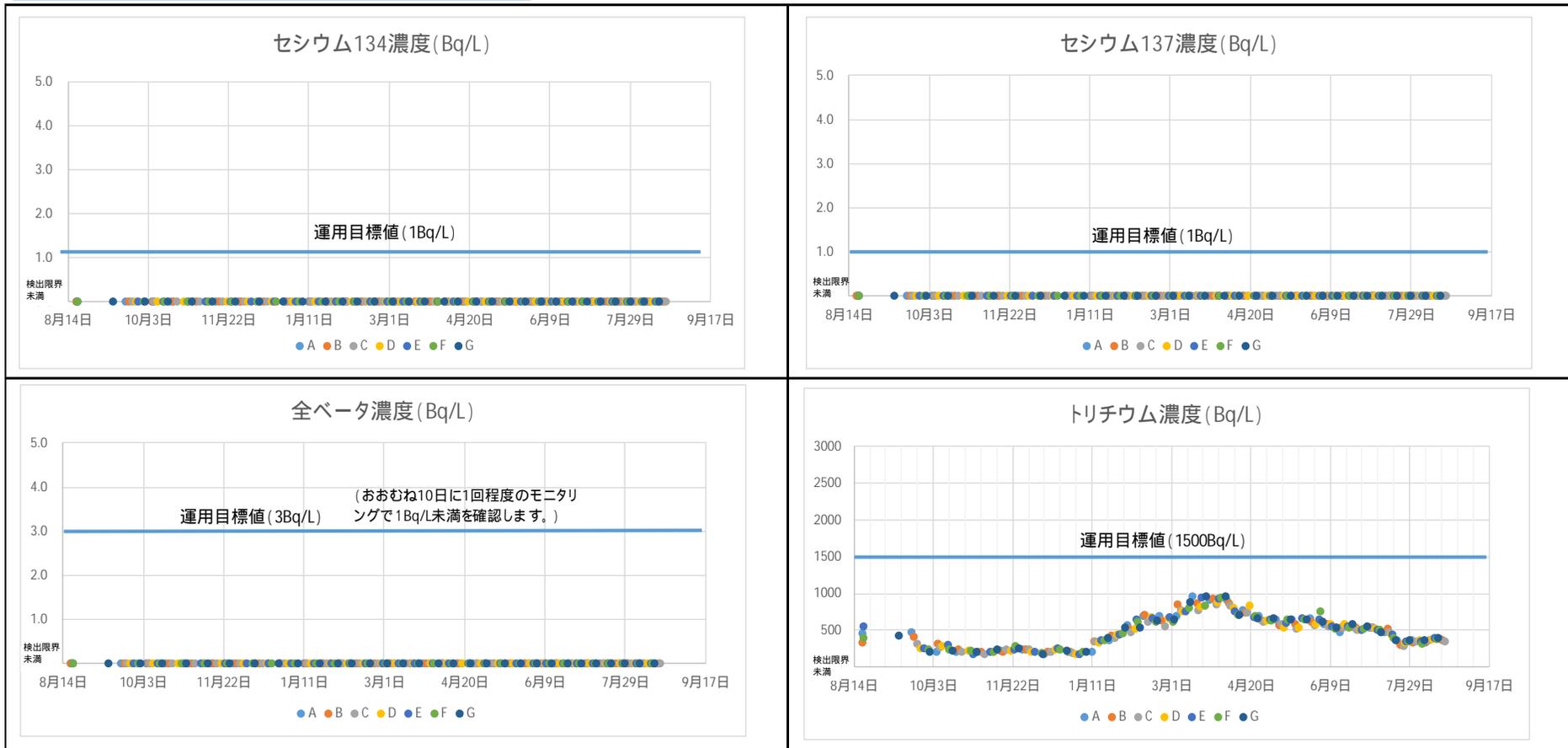
・MP1,2,4,7,8近傍は2014年10月1日、MP3,5,6近傍は2015年5月14日より、測定開始。

サブドレン・地下水ドレンによる地下水のくみ上げと分析

分析結果・排水の実績

一時貯水タンクに貯留しているサブドレン・地下水ドレンの分析結果は、いずれも運用目標値を下回っていることを確認しました。同じサンプルを第三者機関にて分析を行い、運用目標値を下回っていることを確認して、2015年9月14日から2016年8月23日までに合計216回、172,520m³を排水しました。

一時貯水タンクの分析結果（当社分析値）



サブドレン・地下水ドレンの分析結果の詳細については、<http://www.tepco.co.jp/decommision/planaction/monitoring/index-j.html#anc01sd> をご覧ください。

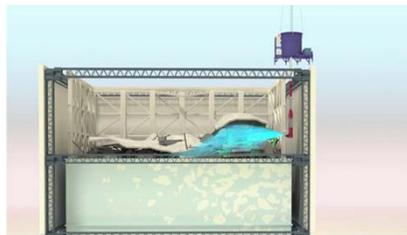
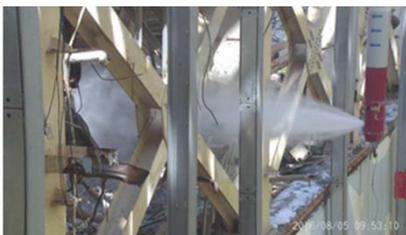
1号機カバー解体におけるダストの飛散抑制対策について

1号機カバー解体作業では、2013年8月に発生した免震棟前のダストモニタ警報発生を受けて、ダスト飛散抑制対策を実施しています。ダストの飛散を抑制するため、重層的な対策とオペレーティングフロア等でのダストの監視を徹底しており、来月から壁パネルの撤去を実施します。地域の皆さまをはじめ社会の皆さまにご心配をおかけすることがないよう細心の注意を払い作業を進めてまいります。

定期的に飛散防止剤散布を実施します



積み重なっているガレキの側面からも飛散防止剤を散布できるように、2016年4月28日にノズルユニットの設置が完了しました（8月4日より側面からの飛散防止剤の散布を開始）。



小ガレキの吸引を実施しました



壁パネル撤去前に、ダストの飛散を少しでも抑えるため、可能な限り小ガレキの吸引を実施し、8月2日までに予定していた作業が完了しました。
今回の吸引で約70m³の小ガレキを回収しており、回収した小ガレキについては、構内に適切に保管しております。写真は、1号機オペレーティングフロア上での吸引器による実際の吸引作業風景です。



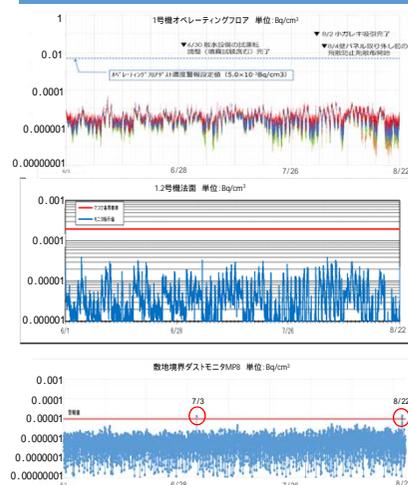
強風が予想された場合には、散水を実施します



- ・強風時のダスト飛散対策として、翌日25m以上の強風が予想される場合、事前に散水を実施します。
- ・散水設備により、水をミスト状に噴霧し、飛散を抑えます。



作業中のダスト濃度に変化は見られません



- オペフロダスト濃度警報設定値 : 0.005Bq/cm³
- 全面マスク着用基準値 : 0.0002Bq/cm³
- 構内ダストモニタ警報設定値 : 0.0001Bq/cm³
- ▲ 敷地境界ダストモニタ警報設定値 : 0.00001Bq/cm³



敷地境界での警報発生時には、オペフロアにおいて異常がないことが確認できる